

授業科目名： 総合的な学習の時間 指導法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 藤上 真弓 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>児童・生徒の体験世界に寄り添いながら、総合的な学習の時間・総合的な探究の時間における学びへの理解を深め、「自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成」「実社会・実生活の課題を探究する学びの実現」という総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の目標を具現化する指導計画の作成および具体的な授業実践、評価等のあり方について考える。</p> <p>総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の目標やカリキュラム・マネジメント、「探究」「協働」を具現化するための単元デザイン・授業デザインに必要な視点や方法、考え方について理解し、それらに照らし合わせながら実践事例を分析することができる。また、学校現場の実際の取組に関心を持ち、積極的に情報収集した上で、志望する校種で取り組んでいきたい単元や授業の案を考えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>総合的な学習の時間・総合的な探究の教育理念や教育原理、カリキュラム・マネジメントや単元開発、授業づくり等に必要な視点や方法、考え方等について学ぶとともに、実践化を図るための資質・能力を高める講義を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の意義と果たす役割 [目標、教育理念、教育原理、カリキュラム・マネジメント] (AL：グループワーク、ディスカッション)</p> <p>第2回：主体的・対話的で深い学びを生み出すカリキュラム・マネジメント、単元デザインのポイント [目指す姿を具現化するための学びとカリキュラム・マネジメント] (AL：グループワーク、ディスカッション)</p> <p>第3回：総合的な学習の時間・総合的な探究の時間に身に付けたい資質・能力とカリキュラム・マネジメント、指導計画作成のあり方 [各教科等との関連、考えるための技法やワークシートの活用のあり方] (AL：グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション)</p> <p>第4回：目標を実現するためにふさわしい探究的課題や探究的な学習・探究の過程を生み出すための手立て (AL：グループワーク、ディスカッション)</p>			

第5回：キャリア教育を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント

(AL：グループワーク、ディスカッション)

第6回：環境や福祉等、現代的課題を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント (AL：グループワーク、ディスカッション)

第7回：地域や学校の特色に応じた課題を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント (AL：グループワーク、ディスカッション)

第8回：総合的な学習の時間・総合的な探究の時間における評価

[見取り、グループモデレーション等]

(AL：グループワーク、ディスカッション)

テキスト

文部科学省編「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」，東洋館出版社，2018.

文部科学省編「中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」，東山書房，2018.

文部科学省編「高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編」，学校図書，2019.

参考書・参考資料等

都留覚，藤上真弓「小学校プロ教師に学ぶ総合的な学習の時間授業の基礎技術」，東洋館出版社，2012.

文部科学省編「(小学校編) 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開：未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現」，アイフィス，2021.

文部科学省編「(中学校編) 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」，アイフィス，2022.

文部科学省編「(高等学校編) 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」，アイフィス，2023.

国立教育政策研究所教育課程研究センター [編] 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (小学校)」，東洋館出版社，2020.

国立教育政策研究所教育課程研究センター [編] 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (中学校)」，東洋館出版社，2020.

国立教育政策研究所教育課程研究センター [編] 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (高等学校)」，東洋館出版社，2021.

学生に対する評価

レポート等の記述式の提出物だけでなく、授業内における発言やグループ活動への参加度、考えを論理的かつ表現豊かにプレゼンテーションしようとするスキルも含めて、総合的に評価する。

小テスト・授業内レポート (20%)、授業参加度 (5%)、宿題・授業外レポート (75%)

授業科目名： 総合的な学習の時間指 導法A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 生寫亜樹子 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 総合的な学習の時間の目標及び内容、育成する資質・能力、指導の手だて や評価の方法について理解し、年間指導計画および単元計画を作成することができる。			
授業の概要 本授業では、グループワークやディスカッションによる方法を中心に、実践例の検討及び 指導計画の作成を行うことをとおして、総合的な学習の時間の実施に必要な知識・技能を身に付ける。			
授業計画 第1回：学習指導要領の変遷と総合的な学習の時間新設の背景 第2回：総合的な学習の時間の目標及び内容 第3回：総合的な学習の時間において育成したい資質・能力と評価 第4回：総合的な学習の時間の実践例の検討（1）中学校の実践例 第5回：総合的な探究の時間の実践例の検討（2）高等学校の実践例 第6回：総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画の作成 第7回：総合的な学習の時間と学校づくり 第8回：まとめと定期試験			
テキスト 指定しない			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」（平成29年告示） 高等学校学習指導要領解説「総合的な探究の時間編」（平成30年告示）			
学生に対する評価 定期試験（50%）、小テスト（20%）、授業内外のレポート（20%）、課題に対する取り組み（10%）から総合的に評価する。			

授業科目名： 特別活動	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小杉 進二、藤上 真弓 担当形態：オムニバス
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解する。 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解する。 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解する。 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解する。 特別活動の指導の在り方を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解する。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解する。 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示する。 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。本講義では、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けることを目指す。具体的には、学級活動、児童・生徒会活動、学校行事の各項目の特質・内容の取扱いについて理解を深めると共に、策定した学習計画に基づく指導とその評価といった一連のプロセスを体得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 特別活動の歴史と意義（担当：小杉進二）</p> <p>第2回：学習指導要領における特別活動の目標及び位置付けと各教科等との関連（担当：藤上真弓）</p> <p>第3回：学級活動・ホームルーム活動の理解（担当：藤上真弓）</p> <p>第4回：特別活動の指導計画と学習指導案の作成（担当：藤上真弓）</p>			

第5回：話し合い活動における合意形成/特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携（担当：小杉進二）

第6回：児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の理解（担当：藤上真弓）

第7回：話し合い活動の実際とその評価・改善（担当：小杉進二）

第8回：総括と期末試験（担当：小杉進二）

テキスト

『小学校学習指導要領解説 特別活動編』、文部科学省、2018年

『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、文部科学省、2018年

『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』、文部科学省、2018年

参考書・参考資料等

授業内容に応じて、適宜配布致します。

学生に対する評価

①毎回の授業時ミニツツペーパー（授業内レポート、宿題・授業外レポート；35%）

②学習指導案の作成・改善（演習；25%）

③学期末テスト（40%）

以上の合計により評価する。

授業科目名： 特別活動A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小杉 進二、藤上 真弓 担当形態：オムニバス
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> (1)学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解する。 (2)教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解する。 (3)学級活動・ホームルーム活動の特質を理解する。 (4)児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解する。 2. 特別活動の指導の在り方を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解する。 (2) 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解する。 (3) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示する。 (4) 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。本講義では、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けることを目指す。具体的には、学級活動、児童・生徒会活動、学校行事の各項目の特質・内容の取扱いについて理解を深めると共に、策定した学習計画に基づく指導とその評価といった一連のプロセスを体得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 特別活動の歴史と意義（担当：小杉進二）</p> <p>第2回：学習指導要領における特別活動の目標及び位置付けと各教科等との関連（担当：藤上真弓）</p> <p>第3回：学級活動・ホームルーム活動の理解（担当：藤上真弓）</p> <p>第4回：特別活動の指導計画と学習指導案の作成（担当：藤上真弓）</p>			

第5回：話し合い活動における合意形成/特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携（担当：小杉進二）

第6回：児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の理解（担当：藤上真弓）

第7回：話し合い活動の実際とその評価・改善（担当：小杉進二）

第8回：総括と期末試験（担当：小杉進二）

テキスト

『小学校学習指導要領解説 特別活動編』、文部科学省、2018年

『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、文部科学省、2018年

『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』、文部科学省、2018年

参考書・参考資料等

授業内容に応じて、適宜配布致します。

学生に対する評価

①毎回の授業時ミニツツペーパー（授業内レポート、宿題・授業外レポート；35%）

②学習指導案の作成・改善（演習；25%）

③学期末テスト（40%）

以上の合計により評価する。

授業科目名： 教育方法学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：熊井 将太 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>本講義では、（１）日本と諸外国で蓄積された授業づくりの原理と方法論を学び、（２）現行の学習指導要領が拠って立つところを理解する。最終的には、（１）、（２）をもとに、（３）授業づくりにおける学校や教師の位置づけについて考察していく。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>（１）日本と諸外国で蓄積された授業づくりの原理と方法論をもとに、現行の学習指導要領を特徴づける教育方法論のキーワードを理解する。【知識・理解】</p> <p>（２）テキスト演習・グループ検討会をもとに創造的な授業づくりの構築に必要な原理と方法論を身につける。【思考・判断・表現】</p> <p>（３）（１）、（２）をもとに、教育実践にかかわる研究開発力を獲得し、創造的な授業づくりの在り方を発信することができることを目指す。【学びへの主体性】</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（テーマ紹介）</p> <p>第2回：教育方法学の領域と対象 教育方法学とは</p> <p>第3回：授業づくり1：研究する教師（話法・板書等授業技術を身につける）</p> <p>第4回：授業づくり2：主体的・対話的で深い学び（教室内コミュニケーション等指導技術を身につける）</p> <p>第5回：教育評価論 評価の観点とその機能</p> <p>第6回：授業研究 レッスン・スタディの機能（学習指導案の作成を含む）</p> <p>第7回：先人の実践から学ぶ 実践史</p> <p>第8回：まとめ・総括</p>			
<p>テキスト：</p> <p>特に無し。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>①ポートフォリオ課題、②テキスト課題、③総括レポートを総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 教育方法の理論と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：熊井将太 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業の到達目標及びテーマ： 本講義では、（１）日本と諸外国で蓄積された教育方法学の原理を学び、（２）2017年/2018年改訂の学習指導要領が拠って立つところを理解する。最終的には、（１）、（２）をもとに、（３）教育方法学のパースペクティブについて考察していく。			
授業の概要： （１）日本と諸外国で蓄積された授業づくりの原理と方法論をもとに、現行の学習指導要領を特徴づける教育方法論のキーワードを理解する。【知識・理解】 （２）テキスト演習・グループ検討会をもとに創造的な授業づくりの構築に必要な原理と方法論を身につける。【思考・判断・表現】 （３）（１）、（２）をもとに、教育実践にかかわる研究開発力を獲得し、創造的な授業づくりの在り方を発信することができることを目指す。【学びへの主体性】			
授業計画 第1回：オリエンテーション（テーマ紹介） 第2回：教育方法学の研究 研究するためのパースペクティブ 第3回：国際学力調査と能力論 コンピテンシーの国際比較 第4回：教師の専門性 力量形成 授業・保育の構成要素を理解し、教育方法のあり方を考える 第5回：教育評価論 パフォーマンス課題の実践 第6回：授業デザイン 学習指導案づくりを考える 第7回：先人の実践から学ぶ 実践史 第8回：まとめ・総括			
テキスト： 特に無し。			
参考書・参考資料等： 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）			
学生に対する評価： ①ポートフォリオ課題、②テキスト課題、③総括レポートを総合的に評価する。			

授業科目名： 教育方法学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：熊井 将太 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>本講義では、学校教育の中で教師として求められる教育方法・技術に関わる基本的な視点を獲得することで、子どもの指導のために必要とされる方法的・技術的力量の基礎を養い、自身の実践を反省するための枠組みを獲得することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりの基本的なキーワードを理解する。 ・授業づくりに関する多様な意見をふまえて、自分なりの考えを持つことができる。 ・当事者として授業づくり・学級づくりの問題を考えることができる。 			
<p>授業の概要： 本講義では、主に授業づくりの基本的な視点を取り扱う。まず、学力や教育内容に関する問題に触れ、それをふまえて指導案のデザインや教育評価の方法について学んでいく。講義形式を基本とするが、実践事例の検討やケーススタディに際して、グループ討議も取り入れる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 教育方法学の領域と対象</p> <p>第2回： 学力の捉え方</p> <p>第3回： 授業づくり①：教材研究</p> <p>第4回： 授業づくり②：発問</p> <p>第5回： 授業づくり③：アクティブラーニング</p> <p>第6回： 授業づくり④：教育評価（1） 教育評価の目的</p> <p>第7回： 授業づくり⑤：教育評価（2） 教育評価の方法</p> <p>第8回： 講義の総括 ～学習指導案の作成を踏まえて～</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト：</p> <p>特に無し。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業内で紹介する。</p> <p>自分の希望する学校種や教科の学習指導要領は参照できるようにしておくことが望ましい。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>毎時に課するポートフォリオ型の小レポートおよび学期末のテストを評価対象とする。教育方法に関する基礎的な理解や自身の意見構成および表明能力、教育問題に対する当事者的態度を評価する。</p>			

授業科目名： 授業におけるICT活用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：鷹岡 亮 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性など、情報通信技術(ICT)の活用の意義と在り方を理解している。 教育の情報化の3つの柱(情報活用能力の育成、教科指導におけるICTの活用、校務の情報化)について理解し、特に、統合型校務支援システムを含むICTを効果的に活用した校務の情報化の方法を身につけている。 学習場面に応じたICT・AIを効果的に活用した指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む)を理解し、基礎的な指導法を身につけている。 情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身につけている。 個別テーマ：デジタル教科書、遠隔・オンライン授業、プログラミング教育、生成AI 			
<p>授業の概要：</p> <p>この授業では、これからの変化の激しい時代やSociety5.0時代を踏まえた授業の在り方について、授業で活用できる情報通信技術(ICT)・AIの演習・実習、ICT・AIを効果的に活用した授業実践事例を視聴する等の活動を通して、教科指導においてICT・AIを効果的に活用した分かりやすく、深まる授業を実現するための基礎的な指導法を身につけていきます。また、遠隔・オンライン授業の意義や活用・指導法、プログラミング教育に関する授業の意義や活用・指導法などを身につけていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業オリエンテーション、変化の激しい時代における資質・能力とICT活用の意義について考える</p> <p>第2回：Society5.0時代の教育の情報化(校務の情報化の推進を含む)と情報活用能力を考える</p> <p>第3回：教科指導における教育データも含めたICT・AI活用(学習場面に応じた効果的な教員の利用(外部人材・外部機関との連携を含む))を考える</p> <p>第4回：教科指導における教育データも含めたICT・AI活用(学習場面に応じた効果的な児童・生徒(特別の支援を必要とする生徒を含む)の利用)を考える</p> <p>第5回：デジタル教科書やデジタル教材を活用した学習指導(教育データの活用を含む)を考える</p> <p>第6回：遠隔・オンライン授業を活用した学習指導を考える</p> <p>第7回：小中高のつながりを踏まえたプログラミング的思考を育む学習指導を考える</p> <p>第8回：ICT・AIの高度化に伴う情報モラル、安全・安心のための情報セキュリティ(教育データの取扱いを含む)を考える</p> <p>定期試験：試験は実施しない。</p> <p>テキスト：</p>			

- 小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）、中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領総則編（平成30年7月告示 文部科学省）
- その他、各回の必要に応じて、テキストを配布(URLの提示も含む)します。

参考書・参考資料等：

- 高橋純(編著)：教師のための教育学シリーズ13 教育方法とICT、学文社、2023
- 堀田龍也(監修)：GIGAスクールはじめて日記4 これができる！個別最適な学びと協働的な学び、さくら社、2024
- 堀田龍也、高橋純、佐藤正寿 他：わたしたちとじょうほう 情報活用スキル編、学研プラス、2021

学生に対する評価：

- 授業内レポートや課題、授業態度・授業への参加度、発表等を総合的に評価します。

授業科目名： ICT活用の理論と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：鷹岡 亮 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善の必要性など、情報通信技術やAIの活用の意義と在り方を理解している。 個別最適な学びと協働的な学び等を実現するために、AIや学習履歴など教育データを活用して指導や学習評価に活用するなど基礎的な指導法を身に付けている。 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間において、横断的に育成する情報活用能力(情報モラルを含む)について、その内容を理解して基礎的な指導法を身に付けている。 校務の情報化の必要性や活用法、ICT環境の整備の在り方や外部人材や外部機関との連携の方法について理解している。 個別テーマ：協働的な学び、個別最適な学び、1人1台タブレット端末のいかし方、生成AI、教育情報セキュリティ 			
<p>授業の概要：</p> <p>この授業では、Society5.0時代におけるAIやICTの発展の方向性を理解しながら、特に、個別最適な学びと協働的な学びを対象にして、1人1台のタブレット端末をいかした基礎的な指導法を身につけていきます。また、情報活用能力(情報モラル含む)の育成について、教科横断的な学習、総合的な学習の時間の学習を対象にした指導法を学んでいきます。さらに、ICT環境の整備や校務の情報化、ICT・AI活用を好循環させるための外部人材や外部機関との連携の方法についても学んでいきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Society5.0時代におけるAI・ICT技術の発展と学習での効果的な活用を考える</p> <p>第2回：協働的な学びとICT・AIの効果的な活用を考える</p> <p>第3回：協働的な学びを実現する先進的授業実践から指導法を考える</p> <p>第4回：個別最適な学びとICT・AIの効果的な活用を考える</p> <p>第5回：学習履歴や教育データさらにAIを活用した指導や学習評価を考える</p> <p>第6回：小中高の接続性を踏まえた情報活用能力の育成について考える</p> <p>第7回：ICT環境の整備や授業におけるICT・AI活用の研修の在り方や外部人材・機関との連携方法を考える</p> <p>第8回：働き方改革をICT・AI活用推進のための校務の情報化を考える</p> <p>定期試験：試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト：</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）、中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領総則編（平成30年7月告示 文部科学省） その他、各回の必要に応じて、テキストを配布(URLの提示も含む)します。 			

参考書・参考資料等：

- 奈須正裕：個別最適な学びと協働的な学び、東洋館出版社、2021
- 稲垣忠、佐藤和紀（編著）：ICT活用の理論と実践：DX時代の教師をめざして、北大路書房、2021
- 高橋純：学び続ける力と問題解決 ～シンキング・レンズ、シンキング・サイクル，そして探究へ～、東洋館出版社、2022
- 堀田龍也、高橋純、佐藤正寿 他：私たちと情報 情報社会探究編、学研プラス、2021.

学生に対する評価：

- 授業内レポートや課題、授業態度・授業への参加度、発表等を総合的に評価します。

授業科目名： 授業におけるICT活用A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：鷹岡 亮 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性など、情報通信技術(ICT)の活用の意義と在り方を理解している。 教育の情報化の3つの柱(情報活用能力の育成、教科指導におけるICTの活用、校務の情報化)について理解し、特に、統合型校務支援システムを含むICTを効果的に活用した校務の情報化の方法を身につけている。 学習場面に応じたICT・AIを効果的に活用した指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む)を理解し、基礎的な指導法を身につけている。 情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身につけている。 個別テーマ：デジタル教科書、遠隔・オンライン授業、プログラミング教育、生成AI 			
<p>授業の概要：</p> <p>この授業では、これからの変化の激しい時代やSociety5.0時代を踏まえた授業の在り方について、授業で活用できる情報通信技術(ICT)・AIの演習・実習、ICT・AIを効果的に活用した授業実践事例を視聴する等の活動を通して、教科指導においてICT・AIを効果的に活用した分かりやすく、深まる授業を実現するための基礎的な指導法を身につけていきます。また、遠隔・オンライン授業の意義や活用・指導法、プログラミング教育に関する授業の意義や活用・指導法などを身につけていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業オリエンテーション、変化の激しい時代における資質・能力とICT活用の意義について考える</p> <p>第2回：Society5.0時代の教育の情報化(校務の情報化の推進を含む)と情報活用能力を考える</p> <p>第3回：教科指導における教育データも含めたICT・AI活用(学習場面に応じた効果的な教員の利用(外部人材・外部機関との連携を含む))を考える</p> <p>第4回：教科指導における教育データも含めたICT・AI活用(学習場面に応じた効果的な児童・生徒(特別の支援を必要とする生徒を含む)の利用)を考える</p> <p>第5回：デジタル教科書やデジタル教材を活用した学習指導(教育データの活用を含む)を考える</p> <p>第6回：遠隔・オンライン授業を活用した学習指導を考える</p> <p>第7回：小中高のつながりを踏まえたプログラミング的思考を育む学習指導を考える</p> <p>第8回：ICT・AIの高度化に伴う情報モラル、安全・安心のための情報セキュリティ(教育データの取扱いを含む)を考える</p> <p>定期試験：試験は実施しない</p> <p>テキスト：</p>			

- 小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）、中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領総則編（平成30年7月告示 文部科学省）
- その他、各回の必要に応じて、テキストを配布(URLの提示も含む)します。

参考書・参考資料等：

- 高橋純(編著)：教師のための教育学シリーズ13 教育方法とICT、学文社、2023
- 堀田龍也(監修)：GIGAスクールはじめて日記4 これができる！個別最適な学びと協働的な学び、さくら社、2024
- 堀田龍也、高橋純、佐藤正寿 他：わたしたちとじょうほう 情報活用スキル編、学研プラス、2021

学生に対する評価：

- 授業内レポートや課題、授業態度・授業への参加度、発表等を総合的に評価します。

授業科目名： 生徒指導概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小杉 進二、松岡 敬興 担当形態：複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 現代の児童生徒が置かれている現実や問題状況を把握し、子どもの見方を鍛えるとともに、児童生徒の育ちを支えるために教師に求められる指導態度や指導技術の基礎を獲得する。			
授業の概要 本授業では、実践事例やケーススタディをもとにして、問題への対処法の学習にとどまることなく、児童生徒の人間形成を支える生徒指導の方法について考える。したがって、いじめ、不登校、学級崩壊といった教育問題をはじめ、日常的な学級経営や集団づくり、教師—生徒関係の構築、家庭や地域社会との連携といった内容について講義を進めていく。基本的には講義形式で進めるが、事例検討やケーススタディに際してはグループ討議なども用いる。			
授業計画 第一回：オリエンテーション（導入レクチャー）（担当：小杉進二、松岡敬興） 第二回：現代社会における生徒指導の意義と役割（担当：小杉進二、松岡敬興） 第三回：子どもの権利と生徒指導の課題（担当：小杉進二、松岡敬興） 第四回：子ども理解の視点と方法（1）「子ども」について考える（担当：松岡敬興） 第五回：子ども理解の視点と方法（2）特別支援教育とのかかわり（担当：松岡敬興） 第六回：子ども理解の視点と方法（3）修学支援と学級経営（担当：松岡敬興） 第七回：学級経営の基礎理論（1）学級の意義について（担当：小杉進二、松岡敬興） 第八回：学級経営の基礎理論（2）学級づくり（担当：小杉進二、松岡敬興） 第九回：学級経営の基礎理論（3）事例検討（担当：小杉進二、松岡敬興） 第十回：学級経営の基礎理論（4）学級崩壊を考える（担当：小杉進二、松岡敬興） 第十一回：いじめの発生形態とその特徴（1）「いじめ」を考える（担当：松岡敬興） 第十二回：いじめの発生形態とその特徴（2）「いじめ」への対応（担当：松岡敬興） 第十三回：体罰・懲戒とゼロトレランス「規律」について考える（担当：松岡敬興） 第十四回：不登校のメカニズム不登校の背景（担当：松岡敬興） 第十五回：まとめと総括（担当：小杉進二、松岡敬興）			
テキスト			

小国喜弘著『戦後教育史：貧困・校内暴力・いじめから、不登校・発達障害問題まで』（中央公論新社）2023年

参考書・参考資料等

吉田 武男 監修・編著 花屋 哲郎 編著『生徒指導』ミネルヴァ書房、2024年。

原田琢也，伊藤駿編著『インクルーシブな教育と社会：はじめて学ぶ人のための15章』ミネルヴァ書房，2024

関連図書は授業内で紹介する。紹介したもの以外も積極的に自ら探索し、読む習慣をつけてほしい。

生徒指導提要（令和4年12月 文部科学省）

学生に対する評価

①ポートフォリオ課題、②テキスト講読、③総括レポートを総合的に評価する。

授業科目名： 生徒指導概論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小杉 進二、松岡 敬興 担当形態：複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 現代の学校や生徒の実態および課題について把握し、生徒指導を行なうために求められる態度や技術の基礎を獲得する。			
授業の概要 現在、学校ではいじめや体罰等、様々な課題がある。本授業では、これまでの教職課程の学修を踏まえて、生徒指導の目的や方法等についての認識を深めながら、事例をもとにして実際に教諭として生徒指導を行なう上での考えを深める。			
授業計画 第一回：オリエンテーション（授業の概要や授業計画、評価方法等についての説明を行う）（担当：小杉進二、松岡敬興） 第二回：児童・生徒が置かれている現状（担当：松岡敬興） 第三回：生徒指導の目的と意義 「生徒指導提要」をもとに、生徒指導の目的と意義について学ぶ（担当：小杉進二、松岡敬興） 第四回：生徒指導の前提となる教育観・指導観 「生徒指導提要」をもとに、生徒指導の前提となる教育観・指導観について学ぶ（担当：小杉進二、松岡敬興） 第五回：生徒指導における集団指導と個別指導 「生徒指導提要」をもとに、集団指導と個別指導の内容および関係について学ぶ（担当：小杉進二、松岡敬興） 第六回：児童・生徒理解 児童・生徒を「理解する」ことはどういうことか、その方法について学ぶ（担当：松岡敬興） 第七回：教育課程と生徒指導① 教科等における生徒指導の考え方について学ぶ（担当：小杉進二、松岡敬興） 第八回：教育課程と生徒指導② 教科等における生徒指導の考え方から事例を検討する（担当：小杉進二、松岡敬興） 第九回：家庭・地域と連携した生徒指導体制①			

<p>家庭・地域と連携した生徒指導の考え方について学ぶ（担当：小杉進二、松岡敬興）</p> <p>第十回：家庭・地域と連携した生徒指導体制②</p> <p>家庭・地域と連携した生徒指導の考え方から事例を検討する（担当：小杉進二、松岡敬興）</p> <p>第十一回：生徒指導にかかわる事例の検討①</p> <p>「校則」の事例から、問題の本質を理解し検討する（担当：松岡敬興）</p> <p>第十二回：生徒指導にかかわる事例の検討②</p> <p>「体罰」の事例から、問題の本質を理解し検討する（担当：松岡敬興）</p> <p>第十三回：生徒指導にかかわる事例の検討③</p> <p>「SNS」の事例から、問題の本質を理解し検討する（担当：松岡敬興）</p> <p>第十四回：生徒指導にかかわる事例の検討④</p> <p>「学級会」の事例から、問題の本質を理解し検討する第十五回：まとめと評価（担当：松岡敬興）</p> <p>第十五回：振り返りとまとめ（担当：小杉進二、松岡敬興）</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p> <p>生徒指導提要（令和4年12月 文部科学省）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内レポートおよび授業外レポート から総合的に評価する。</p>

授業科目名： 教育相談・進路指導	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 春日 由美、佐竹 圭介、藤上 真弓、原田 拓馬 担当形態：複数・オムニバス
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導， 教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論 及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 1.教育相談や進路指導に関する基礎的知識を修得し、具体的対応や方法を理解している。 2.児童生徒の課題や支援について考え、他者と考えを共有することができる。			
授業の概要 学校における教育相談や進路指導について、学校臨床心理学の視点から学ぶ。教育相談については、教育相談の概要、教育相談で扱う具体的問題(不登校、いじめ、非行、発達、保護者支援等)等やその対応について学ぶ。進路指導については、各学齢期における進路指導のあり方や具体的方法について学ぶ。			
授業計画 第1回:オリエンテーション：教育相談・進路指導とは（担当：春日由美・佐竹圭介） 第2回:教員の自己理解とメンタルヘルス、カウンセリング的態度の基礎（担当：春日由美・佐竹圭介） 第3回:学校内外の連携（担当：藤上真弓・原田拓馬） 第4回:不登校とその支援・不登校における進路指導（担当：春日由美・佐竹圭介・藤上真弓・原田拓馬） 第5回:いじめや自殺への対応（担当：春日由美・佐竹圭介） 第6回:問題行動や非行への対応（担当：春日由美・佐竹圭介） 第7回:個別の理解と支援・個別の支援における進路指導（担当：藤上真弓・原田拓馬） 第8回:虐待とその対応（担当：藤上真弓・原田拓馬） 第9回:子どもの心理社会的発達・各発達期におけるキャリア発達の視点（担当：春日由美・佐竹圭介・藤上真弓・原田拓馬） 第10回:保護者との関わり（担当：藤上真弓・原田拓馬） 第11回:学校における危機場面とその対応（担当：藤上真弓・原田拓馬） 第12回:子どもの心理的不適応と心理アセスメント・各発達期におけるキャリア形成上の課題（担当：春日由美・佐竹圭介・藤上真弓・原田拓馬）			

第13回:心理療法の基礎 (担当:春日由美・佐竹圭介)

第14回:開発予防的教育相談 (担当:春日由美・佐竹圭介)

第15回:進路指導・キャリア教育の実際 (担当:春日由美・佐竹圭介)

テキスト

春日由美・五十嵐亮編著『現場で役立つ教育相談入門』北樹出版 2023年

参考書・参考資料等

文部科学省『生徒指導提要(改訂版)』

文部科学省『小学校キャリア教育の手引き』教育出版

文部科学省 国立教育政策研究所 進路指導・進路指導研究センター(編)『変わる!キャリア教育 小・中・高等学校までの一貫した推進のために』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

毎回授業最後に行う授業内レポートの内容および授業外レポート課題、授業内での積極的な発言や質問などから総合的に評価を行う。

授業科目名： 教育相談・進路指導A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 春日 由美・佐竹 圭介 担当形態：オムニバス
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導， 教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論 及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 1. 教育相談や進路指導に関する基礎的知識を修得し、具体的対応や方法を理解している。 2. 児童生徒の課題や支援について考え、他者と考えを共有することができる。			
授業の概要 学校における教育相談や進路指導について、学校臨床心理学の視点から学ぶ。教育相談については、教育相談の概要、教育相談で扱う具体的問題（不登校、いじめ、非行、発達、保護者支援等）等やその対応について学ぶ。進路指導については、各学齢期における進路指導のあり方や具体的方法について学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：教育相談・進路指導とは（担当：春日由美） 第2回：教員の自己理解とメンタルヘルス、カウンセリング的態度の基礎（担当：佐竹圭介） 第3回：学校内外の連携（担当：佐竹圭介） 第4回：不登校とその支援・不登校における進路指導（担当：春日由美） 第5回：いじめや自殺への対応（担当：佐竹圭介） 第6回：問題行動や非行への対応（担当：佐竹圭介） 第7回：個別の理解と支援・個別の支援における進路指導（担当：春日由美） 第8回：虐待とその対応（担当：佐竹圭介） 第9回：子どもの心理社会的発達・各発達期におけるキャリア発達の視点（担当：春日由美） 第10回：保護者との関わり（担当：佐竹圭介） 第11回：学校における危機場面とその対応（担当：佐竹圭介） 第12回：子どもの心理的不適応と心理アセスメント・各発達期におけるキャリア形成上の課題（担当：春日由美） 第13回：心理療法の基礎（担当：春日由美） 第14回：開発予防的教育相談（担当：春日由美） 第15回：進路指導・キャリア教育の実際（担当：春日由美）			
テキスト			

春日由美・五十嵐亮編著『現場で役立つ教育相談入門』北樹出版 2023年

参考書・参考資料等

文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』

文部科学省『小学校キャリア教育の手引き』教育出版

文部科学省 国立教育政策研究所 進路指導・進路指導研究センター（編）『変わる！キャリア教育 小・中・高等学校までの一貫した推進のために』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

毎回授業最後に行う授業内レポートの内容および授業外レポート課題、授業内での積極的な発言や質問などから総合的に評価を行う。

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（中・高）		単位数：2単位	担当教員名：鷹岡亮、佐竹佳介、 小野史典、望月ユリオ		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
<p>受講者数 250名</p> <p>ただし、第2回から第5回目では1グループ100名程度、第6回から第9回まではグループ討論を行うのに適切な少人数のグループ（20名程度）に、第10回から第15回までは学生の所属、あるいは、取得免許の種類等により、演習に適した少人数のグループ（20名程度）に分けて実施する。</p>					
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>教育学部の教職に関する科目担当教員、教科に関する科目担当教員、各学部の教科に関する科目担当教員が、現職教員等教育関係者の意見を聴取しながら、授業を計画し、その実施にあたる。グループ討論・実技指導では、県教育委員会とも協議のうえ、現職教員の参加を得て授業を実施する。</p>					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、これまでの教育課程を通して教員として必要な資質や能力が獲得できたか否かを確認するとともに、さらに教育を取り巻く諸問題に対し自ら課題を自覚し対処できる能力を養うことを目標とする。</p>					
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員として求められる基本4項目（「使命感や責任感，教育的愛情」「社会性や対人間関係力」「幼児児童生徒理解と学級経営」「教科等の指導力」）について、現職教員等教育関係者が設定した課題に対し自身の経験や学びの履歴をもとに回答しまとめ、各項目について理解しているか確認する。 ・20名程度のグループ毎に、現職教員等とのグループ討論、事例研究、ロールプレイなどを通して生徒指導・学級経営・学習指導等の問題について理解できているか確認する。 ・開講クラス毎に模擬授業（ICT・AIの活用含む）、参加者による授業評価を実施し、基本的指導力が身についているか確認する。 					

授業計画

- 第1回 オリエンテーション(本授業の趣旨とスケジュール説明, 受講にあたっての諸注意)
(全員)
- 第2回 「使命感や責任感, 教育的愛情」について振り返り, 整理 (全員)
- 第3回 「社会性や対人間関係力」について振り返り, 整理 (全員)
- 第4回 「児童生徒理解と学級経営」について振り返り, 整理 (全員)
- 第5回 「学習指導力」について振り返り, 整理 (全員)
- 第6回 現職教員等とのグループ討論 (「生徒指導・学級経営」) (全員)
- 第7回 現職教員等とのグループ討論 (「生徒指導・学級経営」) (全員)
- 第8回 現職教員等とのグループ討論 (「学習指導」) (全員)
- 第9回 現職教員等とのグループ討論 (「学習指導」) (全員)
- 第10回 実技指導の課題設定 (履修履歴等を考慮した課題設定と授業計画の説明) (全員)
- 第11回 実技指導へ向けての準備 (指導案作成) (全員)
- 第12回 実技指導 1 (模擬授業[ICT・AIの活用含む], 授業評価) (全員)
- 第13回 実技指導 2 (模擬授業[ICT・AIの活用含む], 授業評価) (全員)
- 第14回 実技指導 3 (模擬授業[ICT・AIの活用含む], 授業評価) (全員)
- 第15回 実技指導 4 (模擬授業[ICT・AIの活用含む], 授業評価) (全員)

テキスト

- 小学校学習指導要領解説総則編 (平成29年7月告示 文部科学省)、中学校学習指導要領解説総則編 (平成29年7月告示 文部科学省)、高等学校学習指導要領総則編 (平成30年7月告示 文部科学省)
- その他、オリエンテーション時や各回の必要に応じて、テキスト (URLの提示も含む) を示す。

参考書・参考資料等

- 授業毎に紹介する。

学生に対する評価

授業毎の課題について、レポート・授業態度・発表・演習の内容をふまえて担当者が評価し、その評価をもとに総合的に行う。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。